2023 年 8 月　//　発行番号　第 50 号

回覧

緩和ケア新聞

飛騨市民病院では、平成１８年に緩和ケアチームを発足、翌年には緩和ケア外来を開設して、住み慣れた地域で安心して最期まで人生を全うするためのサポート体制を整えています。

緩和ケアってなに？

緩和ケアとは、がんなど生命を脅かす病気と診断された時から治療の間、そしてその後の生活の中で生じる身体的な苦痛や気持ちのつらさを少しでも和らげるため、それぞれの患者さんとご家族が“その人らしく”過ごせるように支援させていただくことです。

緩和ケア外来

がんなどの命に関わる病気の患者さんや家族のための緩和ケア外来を開設しています。

毎週火曜日 15 時～17 時（受付 16 時 30 分）

問い合わせ先 TEL.0578-82-1150

＜主な相談内容＞

☆ 痛み、だるさなどの変調について

☆ 病気になったことで起きる様々な心配ごと

☆ 在宅療養の支援について　　等

もしもの時のために　人生会議してみませんか

あなたは「もしものこと」を考えたことがありますか?私たちは、いつでも命に関わるような大きな病気や怪我をして命の危険が迫った状態になる可能性があります。命の危険が迫った状態になると約４分の３の方がこれからの治療やケアなどについて自分で決めたり、人に伝えたりすることができなくなると言われています。

”人生会議”とは、あなたの大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自分自身で考えたりあなたの信頼する人たちと話し合うことを言います。あなたにはこのような前もっての話し合いは必要ないかもしれません。しかし自分の気持ちを話せなくなったときには、心の声を伝えることができるかけがえのないものになり、ご家族やご友人の心の負担は軽くなることでしょう。

緩和ケア新聞

2023 年 8 月//第 50 号

医療用麻薬（モルヒネなど）について正しく理解していますか？

がんの患者さんの多くは、モルヒネのような「医療用麻薬」を使用します。医療用とついていますが「麻薬」という名から連想される負のイメージにより使用を躊躇してしまう患者さんは少なくありません。ですが正しく理解をして使用すれば、**がんの痛みが和らぐ**ことで生活の質が向上し意欲がでてきます。そして**がん治療に取り組むための気力と体調を整える**ことができます。痛みのせいで制限していた行動も再びできるようになったり、よく眠ることができるようになるなどよりよい生活を送れることが期待できます。

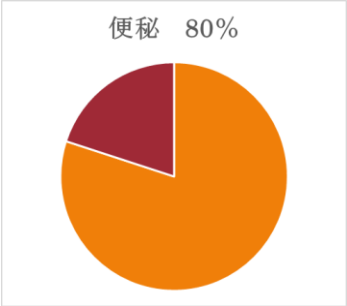
これってほんとなの？！

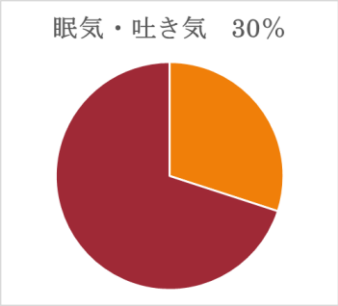
- 麻薬中毒者のように気が狂ってしまう
- 麻薬を使うといつか効かなくなる
- 麻薬を使うと寿命が縮む
- 麻薬を使うのは「末期」のがん患者だけ
- 麻薬を使うともうおしまいだ・・・

根拠のない迷信です！！

医療用麻薬　副作用とその対応について

副作用の割合





副作用が生じた場合

便秘：ほとんどの方で服用中はずっとみられます。下剤の増量、複数の下剤を組み合わせ対応します。

眠気・吐き気：眠気は服薬して 2-3 日、吐き気は服薬して 1-2 週間みられることがありますが、その後なくなることがほとんどです。予防のために吐き気止めを内服することがあります。ひどい場合は、他の医療用麻薬に変更や使用量の減量、他の原因がないか確認します。

幻覚・混乱：まれな副作用です。からだに合わない可能性があるので別の医療用麻薬に変更します。

私たち医療者は「痛み」をとることと「副作用」を予防することのバランスを考え、治療を提供しています。